

以下は、IASSW ホームページより国連ホームページにリンクされている英文基調講演を、社団法人日本社会福祉教育学校連盟が和訳しここに掲載するものであり、文責は社団法人日本社会福祉教育学校連盟にある。

転載、コピー配布等の際は、同連盟事務局にご連絡下さい。

2010 年合同世界大会
ソーシャルワークと社会開発：アジェンダ
沙祖康（Sha Zukang）国連事務次長による基調講演

2010 年 6 月 10 日、於香港

ご列席の皆様。

本日、このソーシャルワークと社会開発の合同大会開会に皆様と一緒させていただけることを、大変光栄に思っております。

まず福祉部門や香港特別行政区（SAR）政府の方々に対し、この重要なイベントを主催してくださったことを感謝申し上げます。香港特別行政区政府は、公教育システム・公共住宅・医療など、社会開発で重要なプログラムに先駆的に取り組まれてきました。これらのプログラムは、実践家が共有できる重要な教えであります。

また IASSW、ICSW、IFSW の皆様にも、ご招待くださったことに格別の感謝を申し上げる次第です。

これらの機関と国連の関係は、数十年前に始まりました。皆様の機関は、国連経済社会理事会の諮問資格を先駆的に取得された NGO であり、半世紀以上にわたって社会発展に向けた国連の功績に多大な貢献をしてくださいました。

本日ここにいらっしゃるメンバーとして皆さまは、専門的知識と現場の経験を携えて、社会分野における国連業務を充実させてくださいました。国連事務総長に代わり、この場をお借りして感謝申し上げます。

皆様。

我々は、社会をより良く変えられるという共通の信念により、ここに集まっております。このような国際フォーラムで我々は、国際機関としての自らの業務だけでなく、社会における貧困層や弱者の苦境についても、メディアを含む人々の目を向けさせてきました。人々が飢餓・失業・病に苦しまず、安全で豊かな生活が送れるよう支援するために、我々は最も効率的な方法で成功事例を交換します。

これら共通の価値観やゴールを持つ多くの人々とここで出会えるのは、胸が躍り心温まるものであります。また地理的な多様性にも励まされる思いです。本会議でのスピーカーの方々も、ウルグアイ・スロヴェニア・エチオピア・イスラエル・ニュージーランド・日本・中国・アメリカ・南アフリカ・ジンバブエ・スウェーデンなど、多様な国からいら

しています。この大会には110以上の国から2,500人以上のご参加があると理解しており、これは文字通り世界のあらゆる場所からの参加です。

皆様は、ソーシャルワークや開発分野で驚くほど幅広い専門分野を代表していらっしゃいます。DV・トラウマ・薬物乱用などをご専門になさる心理学者やソーシャルワーカーの方々もいらっしゃいます。女性や子どもたちに食糧・衣料・教育・安全な場所を提供するNGO代表の方々もいらっしゃいます。世界の若者に、物質的利益での「出世」だけでなく、どのように社会を改善するのかを教えるソーシャルワークの教授の皆様もいらっしゃいます。社会福祉システムの予算を管理される政府の代表もいらっしゃいます。そして社会的プログラムの効果を評価する最先端におられる研究者もいらっしゃいます。

このような専門知識の幅広さと深さは、経済社会問題を担当する国連上級職員としての私の役割に刺激を与えてくださいます。結集した努力を通じて、我々は今日存在する驚異的なレベルの貧困・社会的不公正・排除を縮小できるという希望を与えてくれます。したがって私は、「ともにアジェンダを設定し、ともに課題に立ち向かい、ともに繁栄する」というこの大会のメッセージを称賛いたします。

本日皆様とともに過ごせるこの特別な時間の中で、私は相互に関係する3つのトピックについて考えを述べたいと思います。第1点目として、国際社会が近年、社会開発をどのように前進させたのか評価することが重要であると考えます。

第2点目に、この前進を後押しする上での国連の役割についてお話します。

最後に、最も重要なこととして、市民社会のメンバーとして皆様がどのように国連と関わりを深められるかについてお話します。我々は草の根レベルで皆様の支援を必要としています。

皆様。

ご存じのように、国連は1945年に設立されました。第二次世界大戦終戦直後です。戦争で何百万もの人々が殺され、いくつもの大陸で社会が破壊されました。その背景の中で国々が団結し、国連憲章の前文にあるように、「我々の一生のうち二度まで言語に絶する悲哀を与えた戦争の惨害から将来の世代を救う」ために、国際機関を設立しました。

この前文では、社会的不公正を正す約束も明記されています。

そこでは、我々が「一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上を推進すること」を決意する、と述べています。

この文が国連憲章に書かれて以降、国連は各国政府・NGO・学术界・民間企業・個人の皆様と協力して、恵まれない人々の生活向上に努めてきました。

1995年に国連はコペンハーゲンで、社会開発に関する極めて重要な会議を開催しました。社会開発世界サミット、あるいは社会サミットは、当時世界的リーダーの最大の集まりでした。私の部署がサミットの事務局を務めました。

サミットは大成功をおさめました。本日まで参加されている方の何名かは、そのサミットにも参加されたことと思います。リーダーの方々は、開発の中心に人々を置く必要性につ

いて、新たな合意に達しました。彼（女）らは開発パラダイムの中で、①貧困撲滅、②完全雇用の推進、③社会的統合の発展という3つの核となるゴールに重点を置くことを誓い、コペンハーゲン宣言・10のコミットメント・行動計画を採択しました。

コペンハーゲンは、疎外された人や権利を奪われた人に対する思いやりあるビジョンをもたらしただけでなく、社会が前進するための枠組みも構築したのです。

政府が優先順位を再設定し、社会的プログラムを強化するのを促すために、国連はこの枠組みや他の国際的な合意を得た開発目標を活用しました。2000年と2005年に国連が開催したフォローアップ会議で、我々は励みとなる進展を確認した一方で、憂慮すべきギャップや障害も見つけました。

その結果の一部を皆様にご紹介します。社会サミットで謳われた貧困撲滅を含む、過去に行われたいくつかの国連サミットをまとめた『ミレニアム開発目標（MDGs）』に照らしてご紹介します。

この9月に開かれる第65回総会で、国連が世界のパートナーとともに重要な高官イベントを準備していることもあり、MDGsに焦点を置かせていただきます。このMDGsサミットでは、2015年までに残された5年間で、MDGs達成に向けた進展を推進する活動を活性化することが期待されています。

多くの皆様がお存じのように、MDGsは2001年に数々の国によって採択されました。定量化され期限を定めた8つのゴールと、定量化された21のターゲットは、極度の貧困・飢餓と病・男女平等・教育・環境の持続可能性・グローバルなパートナーシップに対応しています。またこれらは、健康・教育・住まいの権利を皆が持つ、という基本的人権の表れでもあります。

皆様。

これまで健康に関するMDGsのいくつかの点で、著しい前進が見られました。

たとえば5歳未満の幼児死亡数は、1990年では1,250万人だったのが2008年には880万人に減少しています。これは20世紀後半の全体的な傾向を反映しています。医療やテクノロジーの画期的な進歩が、政策措置の支援を受け、子ども達の生存率を高めてきました。

しかし後発開発途上国では今も困難に直面しており、これらの国では児童の8人に1人が5歳になるまでに死亡しています。つまり、小児保健である程度の進展は見られるものの、受け入れがたいほどの多くの子ども達が、今も不利な状況でこの世に生まれてきているのです。私の母国である中国では、この60年間で子どもの死亡率が著しく減少しました。1950年では、子どもの3人に1人が5歳になる前に死亡していましたが、現在は50人に1人となっています。

MDGsのゴール6であるHIV/AIDS・マラリア・その他疾病との闘いでは、成果が見られています。

2003年と2008年の間に、低中所得国でHIVへの抗レトロウイルス療法を受けた人々の数は10倍に増えました。HIVの新たな感染数は、1996年と2008年の間に30%減少しました。

はしかによる死亡数も減少しました。マラリアや結核は、医療や社会開発機関の介入により、コントロールがしやすくなりました。2004年と2009年の間に、アフリカ諸国で2億以上の蚊帳が配布されました。しかし全員に行き渡るには、まだ1.4億の蚊帳が配布される必要があります。

皆様。

これらの医療ケアの成功に加え、ユニバーサルな初等教育へのアクセス改善でも素晴らしい前進が見られます。2000年以降、多くの開発途上国で90%の入学率を達成しました。入学率はサハラ以南のアフリカで最も急速に伸びており、2000年に58%であったのが、2007年には74%に増えています。

さらにこの10年間で、小学校入学の男女格差も縮小されました。2007年における小学校在籍者の男女比は100:95であり、1999年の100:91よりも高くなっています。

しかし、世界の全ての子ども達が教育への人権を行使するには、まだ障壁が多くあります。小学校に通う年齢の子どものうち7,200万人以上が、学校に通えていません。その約半数がサハラ以南のアフリカ諸国にいます。世界で1億2,600万人の子ども達が、危険な仕事に就いています。彼（女）らは、考えを広め健全な子ども時代を送るチャンスを逃しているのです。

ここまで私がMDGsについてお話したことは、最も成功をおさめた点についてです。しかし、この成功が数字だけに表れているのではなく、社会的包摂の観点からも評価されなければならないと我々は認識しています。この点において、ソーシャルワーカーや実践家の皆様の貢献が最も重要になります。回復力や連帯を高めることにより、人々を支援し家族やコミュニティを強化するという皆様のお仕事は、これら改善された統計数値の達成に欠かせないものであります。

MDGsの他の点に関して見ると、その進展、あるいはむしろ進展の欠如を示す結果は憂慮すべきものです。たとえば貧困削減の進展は一様ではなく、今は脅かされている状況です。最近起きた食糧・燃料危機以前では、開発途上国において1日1.25米ドル未満で生活する人の割合が減少していました。これは主に、中国とインドでの進展によるものです。

しかし中国のデータを除くと、このニュースは楽観視できません。1990年と2005年の間に極貧生活を送る人々の数は約3,600万人増加しました。「1日1ドル」の貧困者の数は、サハラ以南のアフリカで9,200万人、西アジアで800万人増加しています。

食糧・燃料危機が金融危機と相まって、状況を更に悪化させました。

雇用に関するターゲットも大幅に弱体化しています。危機以前の失業レベルに戻すだけでも、今後5年間に3億以上の新たな仕事が創出される必要があります。

ゴール3である男女平等も、近年の危機で後退しています。多くの国では深刻な経済不安の際、女性が仕事を失う割合が過度に高くなっています。彼女らが教育を得るチャンスは減り、DVに苦しむ確率は高まります。

ご列席の皆様。

MDGs の達成が大変な課題であることは、疑う余地がありません。私が先ほど申し上げた子ども達の死亡や貧困率の統計が、我々を落胆させ気持ちを重くさせるということは分かっております。我々が直面する課題や問題に、私も時折圧倒されます。

しかし諦めるという選択肢はありません。失敗という選択肢もありません。我々の世界には、MDGs を達成する知識・資源・専門性が存在するのです。我々は政治的意思を結集し、財源や人的資源を動員し、開発途上国がプログラムを実践して国の関連開発戦略を展開するのを支援する必要があります。

国連はいくつかの面でこれらのことを実践してきました。

第 1 に我々は、キャンペーンや全ての国々からの行動を結集することにより、MDGs にスポットライトを当て続けてきました。本日私が行っている基調講演が、まさにそれにあたります。

第 2 に我々は、MDGs の実践の動向や進展をモニタリングしております。私の部にある統計課は 20 以上の国連関連組織と協働しており、MDGs や関連のターゲットの実践について、毎年追跡報告を発行しています。

第 3 に我々はモニタリングを超え、実践におけるギャップを分析しています。私の部署は、学んだことや成功事例を政府・NGO・市民社会グループが共有するための重要な役割を担っています。

第 4 に国連システムは、政府による MDGs を中心に据えた開発戦略の実践を支援しています。国連機関のスタッフは、国レベルの取組に休みなく務めています。

たとえば世界食糧計画は今年、73 カ国で約 9,000 万の人々に食糧支援を行います。現在、支援はハイチ・ニジェール・ミャンマーなどで行われています。

医薬や医療技術の進歩は、ワクチン接種を可能にしました。最近では、1 週間という短い期間でユニセフと世界保健機関が、ハイチで 6 万人の 5 歳未満の子ども達に命を救う予防接種を提供しました。

皆様。

我々の進展にも関わらず、まだ課題は多く残されています。我々の目標は、2015 年までに、1 日 1 ドル未満の収入で暮らす人々の数を半減させることです。これができれば大きな成果となります。しかし、このような極貧生活を送る、世界のもう半分の人々はどのようにでしょうか？我々は、世界が全ての人々を支援するために結集するよう、MDGs を超えた考えを持ち始める必要があります。

21 世紀の医学及びテクノロジーや、国際的に合意を得たゴールを実践するという政府の政治的意思、そしてソーシャルワーカー及び開発専門家の皆様のコミットメントがあれば、我々は貧困にあえぐ人々や権利をはく奪された人々を支援し、彼（女）らの生活を根本的に変えるツールや人材を持っているといえるのです。

この講演の最後に、ソーシャルワークのコミュニティである皆様が、課題に対処しチャンスをとらえるために、どのように国連を支援できるかについて、いくつかの考えを共有

させていただきます。

まず、この大会自体が国連にとって非常に価値のあるものであり、感謝申し上げます。皆様 3 機関が合同で大会を開催し、合同でアジェンダを設定すると決意されたという方法は、まさに我々が市民社会の皆様から必要とする支援であります。

皆様が新たなアジェンダを設定する際、ターゲットやゴールを、どうか可能な限り MDGs と連携させてください。合意を得た MDGs 達成の締め切りである 2015 年までに、あと 4 年半しかありません。

また国連人権宣言・国連子どもの権利条約・国連障害者の権利条約など、他の枠組みにある価値や目的もご考慮ください。皆様はこれらの枠組みをどのように積み重ねられるでしょうか？国連は驚くべき実績や国際的に合意を得たゴールを生み出し、皆様にこれらを自らの基盤として活用していただきたいと思えます。

皆様の大会テーマが、経済と社会開発に目を向けられていると私は理解しております。皆様の新たなアジェンダの中で、これら 2 つの領域をどう相互にリンクできるかに焦点を当ててください。憲章にあるように、「一層大きな自由の中で社会的進歩と生活水準の向上を推進すること」は、極めて重要です。

この点について、2 つの基本的なアプローチがあります。一つ目は市場志向型で、これは経済成長から社会的発展が自然に現れるというものです。もうひとつは人間中心型で、これは国が社会・経済政策を統合して積極的に社会的目標を追求するものです。コペンハーゲンのアジェンダや MDGs は人間中心型アプローチとなります。これらの枠組みでは、市場志向型アプローチで推進される経済成長は欠かせないものですが、発展を遂げるには十分ではないと認識しています。これらのアジェンダでは、発展は人々の生活の真の改善においてのみ本当に測定可能であると認識しています。

この場をお借りして、香港の経済・社会的功績について少しお話させてください。香港はよく、自由市場や自由競争主義経済の縮図として描かれていますが、強力な社会保障システムも有しています。実に強力なこのシステムによって香港の人々は、地域や世界的な金融危機の最悪の影響をいくらか回避することができました。

また、持続可能な発展への取組を、皆様の経済・社会計画にどう結び付けるかについてもご考慮ください。持続可能な発展とは、環境についてだけではない、というのは間違いないことです。持続可能な発展は、社会・経済・環境という 3 つの柱を網羅するものです。

皆様がどのようにして「グリーン」あるいは環境によい政策やプログラムに関連づけられるでしょうか？どのようにリサイクルやきれいな水の重要性を、皆様のターゲットに絡められるでしょうか？国連は、持続可能な発展の推進役であり、その前進のために、我々は社会開発の柱における皆様のインプットや国レベルの支援を必要としています。

国連は 2012 年にブラジルで、「Rio+20」と呼ばれる持続可能な発展に関する世界サミットを開催します。その大会の事務局長に私が使命されました。この大会の成功に向けて、この場をお借りして、皆様のご支援をお願いいたします。

皆様。

我々の組織におけるコミュニケーションやプロモーションの取組みでも、皆様にご支援いただけます。国連は毎年、幅広い課題に関して世界中で多くの取組みを実施しております。たとえば、特定のテーマをPRする「記念日」を多数設けたりしています。世界保健機構（WHO）は、毎年10月10日の世界メンタルヘルス・デーに向けた活動をコーディネートしています。他にも国際青少年デー・国際家族デー・アフリカの子どもデー・貧困撲滅のための国際デー・国際高齢者デーなど多数あります。世界中の国連事務所は、集合的意識においてこれらのテーマの重要性への認識を高めたり推進したりするために、学生の諸会議・映画上映・アートコンテストなどのアウトリーチ活動を企画しています。

皆様には、これらの取組へのご支援をお願いしたいと思います。これらの課題に対する認識を高めるために、皆様の組織ではどのようなことができるでしょうか？人権や男女平等に関して、どのような国連の情報が皆様のクライアントにとって有益でしょうか？DVをやめさせる必要性について、皆様の地域や文化でサポートを得るために、どのようなイベントができるでしょうか？このような草の根の取組の重要性は、いくら強調しても強調しすぎることはありません。たとえば女性に対する暴力をやめさせる必要性について、もし皆様が地域やコミュニティにおけるサポートの火をつけられるならば、それは将来的な法的措置や変革への道を開き始めたことになるのです。

最後に、このイベントを実現された3つの社会開発機関に注がれた皆様の時間やご尽力もまた、国連にとって計り知れないほど重要なものであります。IASSW、ICSW、IFSWの代表の方々は毎年、ニューヨークで開かれる社会開発委員会及び経済社会理事会で、皆様に代わってお話していただきます。代表の皆様の発表や書面による提出、そして専門家会議へのご参加は、経済社会局や国連全体の功績に貢献してくださっています。

これらの組織に皆様がどのようにして更にご参加できるか、ご自身に問いかけてみてください。皆様のクライアントのニーズに対応するために、これらの組織はどのように役立ってくれるでしょうか？皆様の国でこれらの組織が更に強力なものとなるために、小さな事であっても皆様はどのように貢献できるでしょうか？これらの組織のために、皆様はどのような新しくダイナミックなアイデアを提供できるでしょうか？皆様がこれらの組織に時間・研究・フィードバック・アドバイスを提供していただければくださるほど、国連のフォーラムでこれらの組織の声が強力となり、変革への影響力を増すのです。

加えて、南側諸国のNGOにも皆様のご支援の手を差し伸べてくださいますよう、国連よりお願い申し上げます。国連の諮問資格を有するNGOの大半は、北側の先進国にあります。この大会に関しても同様のことが言えると思います。このようなフォーラムに南側諸国のNGOが参加し声をあげる力が得られるよう、我々はどのように協力できるでしょうか？皆様のご経験や知識から彼（女）らが得られるものはとても大きいはずで。

ご列席の皆様。

初めに申し上げたように、本日この場にいられることは、本当に嬉しいことであります。

心の底からそう思っております。この大会は、私が事務次長になって初めて海外で参加した市民社会の会合です。これまで私は多くの政府間カンファレンスに参加しました。皆様ご存じのように、ハイレベルのサミットはあふれており、宣言や活動プログラムにも欠きません。

しかし皆様はソーシャルワーカーや社会開発専門家のグループとして、本当に特別な方々です。皆様は貧しい人・声をあげられない人・権利をはく奪された人とともにご尽力されています。皆様がそのご尽力にふさわしい評価を得られないことも、非常に多くあります。今ここで申し上げたいのは、ニューヨークの国連会議室で設定された気高い開発ゴールの達成に向けて、皆様が日々、各地でなさってくださる貢献を、国連は認識している、ということです。感謝申し上げます。

社会開発を推進するために、我々がどう協力できるかについて、いくつかの方法をお話させていただきました。他にもたくさん方法があるはずです。ここ香港で、そして皆様のご帰国された際に、アイデアを出し合っていたいただきたいと思います。

貧困撲滅や社会的不正の是正に、我々が協力して取り組めば取り組むほど、成功の確率は高くなります。国連は皆様を必要としているのです。

この大会へのご招待に改めて感謝申し上げますとともに、大会のご成功をお祈りしております。